

ほたるの里だより



八千代市ほたるの里づくり実行委員会

第8号 2005年1月発行

次世代に残したいヒメボタル

千葉県立中央博物館 倉西 良一

いまから15年ほど前、千葉県立中央博物館が開館した頃、ヒメボタルを見たという情報があった。誰からの情報だったのか、記録をしていなかったのが悔やまれる。道路のそばに一面にいたらしい。私は、その後何度か機会あるごとに探してみたら痕跡さえ見つけることが出来なかった。長い間、手がとどかない、まさに幻と呼ばざるをえないような存在だった。

昨年の冬、強力な助っ人が登場した。名前を大和田正さんという。社会人で平日は仕事、休日にクロマドボ



ヒメボタル

タルの研究に精を出す。大和田さんの分布調査にかかる意気込みはすごい。房総半島をメッシュに区切り、一晩に何箇所も車で移動しながら探していく。私も同行させてもらった。楽しいのだけれどきつい。暗闇の中、ほとんど懐中電灯を使わないで歩く。幼虫の出すわずかな光を見逃さないためだ。調査は、深夜から早朝にまで及ぶ。僅かな仮眠をとってそのまま仕事に行かれることもあるという。偶然、2001年の春に琉球列島の久米島で会ったご縁で一緒に仕事をするようになった。大和田さんと2004年の研究計画を立てたとき、ヒメボタルを探してみようと提案した。大和田さんとなら見つけることが出来るような気がしたからだ。

ヒメボタルとの出会いは衝撃的だった。最初は、博物館に届けられた生きたヒメボタルだった。採集された安房生物愛好会の小林洋生さんに話を聞くと、天津小湊町の内浦山県民の森の奥谷

林道で採集された個体らしい。急いで大和田さんに連絡し、調査計画を立てる。ちょうど台風がきていてすぐには出かけられない。これまで良く通った内浦山県民の森で見つかったというのも実はショックだった。どうして何度も夜間の調査もしていたのに見つけることが出来なかったのだろうか？さまざまなことが頭をよぎった。

大和田さんと奥谷林道を歩き、その生息数の多さに驚いた。林道沿いに延々とヒメボタルの明滅が続いている。台風明けであること、雲がかかって真っ暗な夜になったことなどさまざまな要因が重なったこともあったのだろう。「今日は本当に幸運でした」。大和田さんがコメントした。大発生を見てから、数日おきに何度か現地足を運んだ。明滅している成虫の数は、日を追うごとに少なくなった。もし数日遅れて現地に行っていれば、まったくちがった印象を持っていたかもしれない。その意味でも本当に幸運だった。

そのヒメボタルの生息を脅かすいくつかの障壁があった。頭をかかえるような問題。生息地の環境が大きく変わる可能性があったからだ。しかしどうにか当面の危機は切り抜けることができた。関係者の方々の献身的な努力に深く感謝したい。まだ房総半島のヒメボタルは分からないことが沢山ある。この素晴らしいホタルを次の世代に残すためにも見守っていききたい。



ヒメボタル発見現場

NPO・FUSION 長池見学会報告

多摩市内にある長池公園を中心に、住民の暮らしを様々な角度から支援しているNPO・FUSION長池を昨年11月13日に見学してきました。今回は天気にも恵まれ、気持ちのよい秋晴れの中、NPO・FUSION 長池の富永一夫理事長に長池公園ネイチャーセンター（自然館）の管理の現状と指定管理者制度^{注1}について、お話を聞かせて頂いたあと、長池公園の散策を行いました。

多摩丘陵は、宮崎駿監督が企画した映画『平成狸合戦ぽんぽこ』の舞台にもなったところです。多摩ニュータウン開発に伴い、たくさんの野生生物が棲みかを奪われ、減少しました。そこで、これらの野生種（貴重種）の保存を目的とした自然保全型公園として、長池公園は作られました。20haもの敷地を持つ長池公園内には、自然体験学習をするための施設としてネイチャーセンターが設置されました。このネイチャーセンターは、NPO・FUSION 長池が八王子市からネイチャーセンターの管理・運営を任されています。

京王線南大沢駅、京王堀之内駅から 見附橋バス停下車



長池公園及びNPO・FUSION長池についての詳しい情報は…

<http://www.pompoco.or.jp/shizenkan/index.htm>

注1) 指定管理者制度

「指定管理者制度」は、多様化する住民ニーズにより効果的に対応するため、公の施設の管理に民間の力を活用し、住民サービスの向上を図るとともに、経費削減を図ることを目的として、平成15年9月から施行されました。地方自治体の指定を受けた者が「公の施設」の管理を代行する

ものなので、私企業やNPO等にも指定管理者の門戸は広く開かれています。

この見学会に出席してくれたメイトの方々からも、たくさんの感想を頂きました。

◇NPO・FUSION 長池の見学会は、多摩丘陵の原風景の残るニュータウンを舞台に住民が主人公となって新しいコミュニティを創るというすばらしい住民活動の大きな成果を見てとることができました。1999年12月に法人として認証されてからまだ、5年。長池公園自然館を基盤にしてさまざまな事業を行って「住見隊」「夢見隊」「高支隊」「自然隊」や「おつまみ作り隊」など愉快な名前の事業が繰り広げられているとのこと。代表者の富永さんの説得力のあるお話しも強い印象を受けました。

林 孝

◇「多摩ニュータウン西南部に位置する長池公園とは、開発と自然環境保持との調和の取れたモデル地区であり、蛍の話も存分に聞かせてもらえるのだろう」とひそかに期待していた。が、館長は、開口一番「この池には、ブラックバスやブルーギルが放たれてしまい、蛍は既に絶滅しました」と、なんとも拍子抜けする話だ。

今回の見学会の目的は、行政と民とが如何にタイアップして「自分達の故郷づくり」をしてゆくかというノウハウを学ぶことにあったようだ。館長の立て板に水の如き語りは、バイタリティ溢れ、日々の苦勞話にも頷けることが多くあった。

長時間に及ぶバスでの移動も、ビデオ上映、環境保全課の事業概要説明、ゲームなど盛りだくさんの企画が用意されており、事務局並びに幹事団のご苦勞に感謝したい。

「ほたるの里だもの、夏になれば蛍が飛び交うのだろう」そんな安易な気持ちで参加したホタルメイトだが、失った自然を回復し、蛍を自生させることが、そう容易なことではないと教えられつつある新米会員である。ならば、腰を据えて草引きでもなんでもやりますよ。

山口 照雄

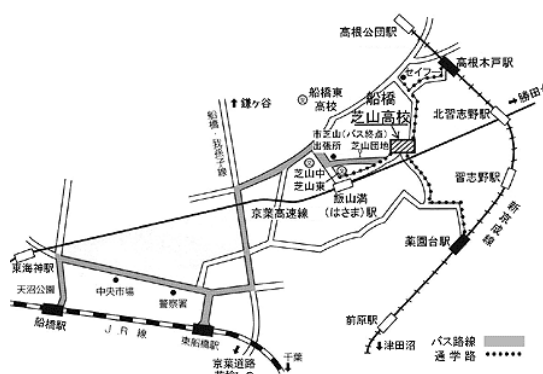
☆ 八千代のホタルに感謝！ ☆

千葉県立芝山船橋高等学校教諭 福士 融

船橋芝山高校には「里山生態園・芝山湿地」と名づけた一角があり、7月になるとヘイケボタルが淡い光を放って飛び交います。そのホタルは八千代市保品産の子孫たちです。

6年前、私が赴任した時にはそこは草ぼうぼうでしたが、隣接する斜面（市の所有地）から湧き水が染み出し、U字溝にはオニヤンマのヤゴやサワガニまでいて驚かされました。そこで以前にはいたというヘイケボタルの復活を1つの目標にして、小川や池を掘り、観察用に木道を設け、小さな水田や畑を作りました。3軒の民家に隣接した500m²ほどの小さな場所ですが、多くの生物たちの棲みかとなるようにできるだけ多様な環境を用意しようと、理科の教員や用務員さん、それにクラブや授業で生徒の応援を得ての作業です。↑

ホタルは1999年から3年間、保品の水田で雌雄数匹ずつを捕獲させていただいて虫かごで産卵させ、4～5歳の幼虫まで室内で育てて放流してきました。3年間でのべ586匹を放流しましたが、2年目1匹、3年目3匹、そして4年目は一晩で17匹の成虫を確認できたので、2002年以降は放流せず自然繁殖に期待をかけました。03年夏と04年夏は一晩に30匹ほど観察できているので、復活間違いなしと考えています。芝山湿地にはメダカやアカガエルもいます。一度訪ねてみませんか。お待ちしております。



里のみどころ (1～3月のころ)

草木は霜で真っ白になり、湿地には氷が張り、霜柱で土がふくらんでいます。

シーンとしたほたるの里。ほたるの幼虫たちのつぶやきが聞こえてきます……

寒いけど里の中の生き物はみんなどうしているのかな？

ぼく達ヘイケボタルとゲンジボタルの幼虫は水の中で暮らすけど、陸上で暮らすヒメボタルが内浦山県民の森で去年発見されたんだって！

体長6～9mm、ご飯粒くらいの大きさで、黄色い光がフラッシュみたいに点滅して、人工の光にとっても弱いんだって。いつか見てみたいね！

2月ごろには、ニホンアカガエルが産卵に、里に来るね！

里にきた人たちが面白い話しをしていたよ。木の葉がついていた跡（葉痕(ようこん)）をよく見ると、いろいろな模様があるんだって。木の芽もミズナラみたいにたくさんついている木、トチノキみたいに1つだけついている木、いろいろあるんだって。探検してみたいね！

(くわはた)

ムラサキシキブ

ヤマモミジ

ミズナラ

トチノキ

ハンノキ

コウゾ(もり)

1・2・3月のスケジュール

里の環境整備

ほたるの里でザリガニ釣りや草刈を行います。

日 時：3月5日（土）午前10時集合

集合場所：ほたるの里

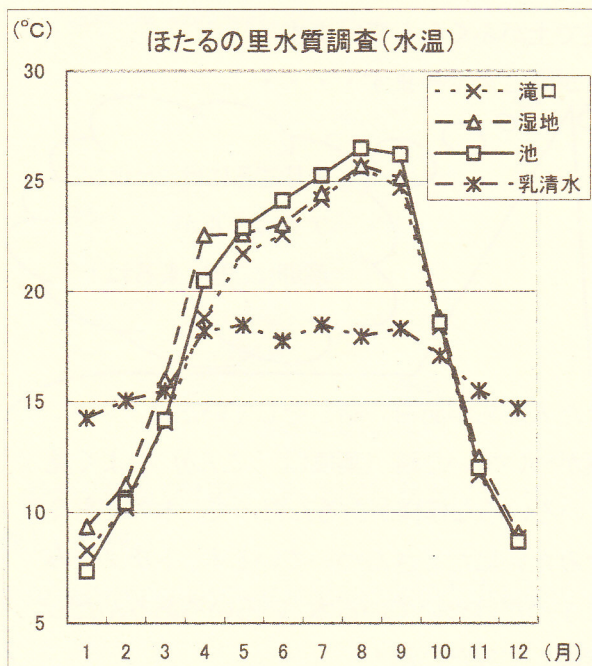
注 意：各自、鎌や軍手の用意をお願いします。

ほたるの里の水温を調べました

平成14年12月から約2年間、里の水質調査を行ってきました。pH(水素イオン濃度)、水温、EC(電気伝導率)などを調査しておりますが、今回は、水温の調査結果を掲載します。

乳清水は湧き水のため、年間通して17度前後で、ほぼ一定した温度を示しています。しかし、ほたるの里の滝口や湿地、池では、冬は水温が低く、春になるにつれて高くなり、夏には26度前後の高い水温を示しております。特に池では、水が停滞しているため、夏に最高水温26.5度を、冬にも最低水温7.4度を記録しております。

今後も引き続き、ほたるの里の水質調査を行っていきます。



写真好き集まれ！！

ほたるの里の写真展を行います。ほたるの里や新川の四季、自然、おもしろい写真などなど、ほたるの里や新川にまつわる写真を募集しております。上位入賞者への景品も予定しています。

写真展にぜひ出品してみませんか？

○応募締切日時：平成17年11月ごろ

○テーマ：新川およびほたるの里

⑨日時・場所など詳しいことは決まり次第、ほたるの里だよりでお知らせ致します。

ほたるの里からの報告

○サポートセンター祭り

平成16年11月3日にフルルガーデン八千代で行われたサポートセンター祭りにほたるの里も参加しました。

○ほたるの里の学習会

平成16年10月23日に千葉県立中央博物館の倉西良一氏を講師としてお招きし、28名の参加者の下、学習会を開催しました。

まず、ほたるの里で、里の現状や今後の管理の仕方についてアドバイスを頂き、その後、ふるさとステーション

の会議室に移動して、ヒメボタルについての講義をして頂きました。



総会のお知らせ

今年度の事業報告と来年度の事業計画を話し合います。

日 時：4月9日（土）午前10時から

場 所：ふるさとステーション第1・2会議

[ほたるの里の連絡先]

〒276-8501 八千代市大和田新田 312-5

八千代市ほたるの里づくり実行委員会事務局 八千代市役所環境保全課

Tel 047-483-1151 Fax 047-484-8824 E-mail kankyuu2@city.yachiyo.chiba.jp

[編集]

広報部会 事務局